

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス にこにこクラブ		
○保護者評価実施期間	R8年1月5日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	R8年1月5日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動フロアが1階、2階に分かれており、児童の特性や活動内容に応じて環境調整が可能である。	刺激に過敏な児童には少人数環境を設定し、活動参加が安定するよう配慮している。集団活動では広い空間を活かし、役割分担や身体活動を取り入れることで参加意欲の向上を図っている。	活動内容に応じた空間のゾーニングを明確にし、より構造化された支援環境を整備していく。
2	室内活動、外出活動や体験型プログラムを取り入れ、社会経験の機会を確保している。	活動前に目的を共有し、振り返りを行うことで体験を学習の機会として活用している。高学年児童には体験だけではなく役割を設定し、主体性の育成につなげている。	個別支援計画書との関連をより明確にし、活動が目標達成に結びつくよう評価方法を見直す。
3	知育玩具、運動器具等を整備し、児童が自ら選択できる環境を整えている。	自由時間にも職員が関わり、対人関係スキルやルール理解の支援を行っている。	年齢や発達段階に応じた見直しを適宜行い、低学年～高学年児童のニーズに対応できる環境を整備する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動が経験中心になりやすく、個別支援計画書との関連が十分に可視化できていない。	活動計画と評価の連動が職員間で統一されていない。	活動ごとに支援目的を明確化し、簡易評価シートを活用して支援の可視化を図る。
2	学校数の増加により送迎調整が複雑化している。	送迎ルートと支援時間確保の両立が難しい。	利用曜日の最適化と事前調整の徹底により、支援時間を確保する体制を整える。
3			